

英語指導力向上へ

県教委笠間で研修

全国に先駆けて県内で小学5、6年で英語が教科化されたことに伴い、県教委は26日、小中学校の教諭の英語の指導力向上に向けた研修を笠間市平町の県教育研修センターで開いた。小中学校の教諭約100人が参加し、指導役の教諭の講義や模擬授業を受けて実践的な英語授業を学んだ。



指導役の教諭の模擬授業を受ける教諭ら＝笠間市平町

小中学校教諭 講義や模擬授業、実践学ぶ

学習指導要領の改定に伴い、本県は全国に先駆けて小学5、6年で英語が教科化された。これに伴い、県教委は、英語教育の教材の効果的な活用を教諭に学んでもらい、授業力の向上を図ろうと研修を実施した。

この日は、文部科学省初等中等教育局視学官の直山木綿子さんが「学習指導要領改訂を踏まえた小・中学校の授業づくり」をテーマに講義を実施。直山さんは実践的な英語授業について「互いの考えを英語で伝え合う『言語活動』を通じて力を付けさせて」と助言した。

その後、教諭らは4教室に分かれて教材を活用した模擬授業を受けた。教材のうち、夏休みの思い出を問う掛ける單元では、3、4人の班になり、どこに行っただか簡単な英語でお互いに教え合った。研修に参加した高萩市立東小の秦野範子教諭(43)は「授業で大切なことが改めて確認できた。子どもに質問しながら授業を進めるなど意識して実践したい」と話した。

(成田愛)